

【まとめ】住民説明会の意見や感想

令和3年10月29日（金）19：00～20：15 ベルディーホール会議室	参加者 21人
令和3年10月30日（土）11：00～00：30 八千代中学校体育館	参加者 16人
令和3年10月31日（日）14：00～15：15 加美中学校体育館	参加者 19人
	合計 56人

	意見や感想のまとめ
教 育	<ul style="list-style-type: none"> ・教育の質を上げていくこと。 ・教育の質、教員の質、教員の能力が十分発揮できる環境も大事。 ・最高の学校教育を提供する町・多可町をみんなで実現したいと思う。 ・保護者が良い教育を求めて、町外へ出て行く事のないような対策を。
少子化対策	<ul style="list-style-type: none"> ・少子化対策、若い世代が帰ってくる施策も十分に取ってほしい。 ・若い人の人口を増やす、そういった取組がもっともっと欲しい。 ・学校を統合する前に子どもたちを増やす努力を優先すべきではないか。 ・（多可町へ）帰ってくる、帰って来られるかどうかということ、今から結婚し、子どもを持つ若者は行政のやり方を見ている。
統合について	<ul style="list-style-type: none"> ・これだけ人口は減ってくると統合はやむを得ない。 ・子どもたちの意見を聞くと統合でいいと思う。 ・「この地域の学校で良かった」と後で思えるような学校生活が送れればいい。 ・できるだけ、早く統合をしてコストを抑えた方がよい。未来の子どもたちに多くの負債を残したくない。 ・早い時期に「多可小学校・多可中学校」1校ずつにするのがよいのではないか。 ・3校の統合はやらなければならないので、3中学校の交流やルールの一貫は早い時期から実施していくことを望む。 ・小学校・中学校が同じ場所で学習できると、精神的にも、通学の面でもいろいろな面で安心感があると思う。 ・校則だったり、制服であったり、統合の流れをスムーズにしてほしい。 ・統合で進めていくのがよい。 ・少数意見をしっかりと汲むこと。 ・アスパル周辺に多可町の子どもたちが夢と希望を持って勉強できる小中一貫校を。 ・統合するなら新しい校舎を。

地 域	<ul style="list-style-type: none"> ・統合の流れはやむを得ないが、身近な地域に学校がなくなることは寂しいこと。 ・閉校となった地域にも目を向け、閉校後のまちづくりについても考えて。
先 生	<ul style="list-style-type: none"> ・教育の質を考えるのなら、先生の質も考えていかないと思う。
通 学	<ul style="list-style-type: none"> ・少子化に伴う統合は仕方ないが、通学時間が増え、家庭での学習時間が減る。 ・国道しかバスが走っていないので、そこまで自転車で出なければいけないのか。
小学校	<ul style="list-style-type: none"> ・人口流出を止めるために、小規模校であっても構わないから、きちっと地域に根ざした教育を受けて欲しい。 ・地域を大事にしてもらい、人口減少を食い止めるためにも小学校は残していつてもらうということを強く思っている ・小学校の統合は、結果として人口減少を加速させて地域が無くなってしまう恐れがある。 ・もちろん中学校の統合が喫緊の課題ではあるが、それに遅れないように、出来るだけ速やかに小学校も多可町全部を一つに。 ・小学校も急ぎ統合してもらいたい。 ・本当に小学校も統合が必要。今すぐに話し合いに入っていくべき。
部活動	<ul style="list-style-type: none"> ・部活動だけの統合でいい。
行 政	<ul style="list-style-type: none"> ・統合はやむを得ないと思うが、過疎化や定住の促進、企業誘致などうまくいかなかった町行政の施策にも遠因があることは、町行政も考えるべき。 ・役場職員は、国の施策をみながらもっと柔軟に。
心のケア	<ul style="list-style-type: none"> ・少なからず不安のある子供たちのために、スクールアシスタントの充実を。 ・地域性が全く違う3区の子どもや保護者が集まることに対する心のケアが必要。 ・障がいを持つ子どもたちへの配慮も十分に。
跡地活用	<ul style="list-style-type: none"> ・学校が統合すると巨大な廃墟がたくさん残る。どういう構想で活用を図っていくかなどの説明も必要。

地域の学校教育のあり方を考える会 住民説明会（中区）

■日 時 令和3年10月29日（金）午後7時00分～午後8時15分

■会 場 ベルディーホール会議室

■参加者 21名（中区18人、加美区1人、八千代区2人）

【事務局】

- | | |
|----------------|-------|
| ・教育長 | 越川 昌信 |
| ・教育担当理事兼教育総務課長 | 藤本 志織 |
| ・学校教育課長 | 吉田 勇二 |
| ・学校教育課副課長 | 吉川 成悟 |
| ・教育総務課副課長 | 山本 聡 |
| ・教育総務課主査 | 有田 好孝 |
| ・教育総務課主査 | 安平智香子 |

○司会 藤本理事

○あいさつ 越川教育長

○説明 教育総務課 山本（約45分）

○質疑応答

○維持費など詳細な資料はホームページで公開されるのか。

→3月末に策定した「多可町学校施設等長寿命化計画」を基に積み上げたもの。現時点で公開はしていないが、広報等でももう少し詳しくお知らせする予定。個人情報が含まれていないため公開は可能。

○1クラスの人数は、10人とか15人とかにできないのか。国の決まりがあるのか。

→国の決まりがある。現在は小学校1年生と2年生が35人学級。多可町独自でクラス人数を減らすことはできない。

○教育の質をどのように考えたらいいのか。子どもたちにとってよりよい教育環境として、少人数教育の議論がされているのか。

→少人数教育については議論をしている。小規模化のメリットは教員の目が行き届きやすく、きめ細やかな指導が受けられることがあるが、デメリットとして1クラスの人数が10人以下など少なすぎるのはどうか、友だちの違う意見や多様な考え方にふれあう機会がないというのはデメリットではないかと議論をした。

○統合後の教育の質を上げていくことが議論されるべき。

→八千代中や加美中ではクラス数が減っているため、1クラスの人数が多すぎる状況。

クラス数によって教員の数も減ってしまうため、クラスを二つに分けて授業を展開することができない。中町中ぐらいの規模であれば教員の配置により少人数授業が実現できる。継続して、議論していく。

○明石市は少人数教育を実現しているが、そういうことができるのか。

→明石市は独自予算で教員を雇用し、国に先んじて35人学級を実現している。

○近隣の市町でも統合を実現した市町があると思うが、統合のメリット、デメリットを教えて欲しい。

→大阪府能勢町、クラス替えができることで子どもたち中でのトラブル回避、不登校の抑制、多様な意見、友だちとふれあうことが出来る、同学年の子どもたちが群れ遊びが出来て良かったと保護者の意見があった。

○少子化の問題、なぜこんなに減っているのか。今後どうして増やしていくか、対策もあって欲しい。子どもを増やしていくことも考えなければいけない。

○多可高校も含めて議論したことはあるのか。

→多可高校と一緒に議論したことはない。

○県立高校については、町がどうこう言えることではない。これだけ人口が減ってきたら統合はやむを得ない。学校が地元の一つずつあったら望ましいと思うが、子どもが減ってきていつまでも、現実には難しいと思う。子どもたちの意見を聞いて、友だちも増えて、部活も選べるなど概ね賛成の意見が出ているので統合はいいと思う。小学校中学校高校までは、多可町の住民として残っていると思うが、大学へ行くと町外へ出てしまう、大学を卒業して多可町に住む人が少ない。この人が少なかったら結婚する人口も少ないし、子どもも生まれてこない。そういうことも考えていただきたい。

→アンケートでは、大部分の中学生は、一度は大学などで町外へ出たいと答えるが、その約半分は多可町に帰ってきたいと答えてくれる。しかし、現実はそのようではない。中学生の時から、また成人式などの機会を捉えて、地元企業のことや姫路市など通勤圏内となるところなどを紹介していく。

○地域の学校教育のあり方を考える会の先生方の意見は反映されているのか。

→会議には小・中学校の校長が参加している。

○教育の質、教員の質、教員の能力が充分発揮できる環境も大切。

【記述意見】

・最高の学校教育を提供する町・多可町をみんなで実現したいと思います。少人数教育

について議論し、ぜひ委員会でも合意形成し、できれば提言に含めて欲しい。

・今回の話ですが、再度聞いてみたいです。

・多可町で一番人口の多い中区なのに、説明会の来場者が少ないと感じました。関心が低いのでしょうか。

・少子化問題も合わせて考えていく必要もあると思います。(町としての課題) 統合の流れはやむを得ないと思いますが、身近な地域に学校がなくなることは一方で寂しいことです。

・本日はありがとうございました。少子化の問題については本当に頭を悩まされていると思います。色々あるご意見をまとめるのは本当に大変だと思います。我が家の孫は、今、この地域に居ませんが、もし帰ってきたら・・・と思い参加させていただきました。やはり、人数的なことで統合という形にするしかないのでしょうか。子どもたちのこれからを考えると、やはり、統合になっても中身の問題でしょうね。この地域の学校で良かった、と後で思えるような学校での生活が送ればいいなと思います。

・今後、町の人口が減っていくことが考えられる。日本全体をみていっても人口はどんどん減っていくと考えられます。できるだけ、早く統合をしてコストを抑えた方がのちのち町の負債を長く残さずにすむのではないかと考えます。未来の子どもたちに多くの負債を残したくないと思います。教育の質を考えるのなら、先生の質も考えていかないと。すばらしい先生もおられますが、そうでない先生もおられると聞くこともあります。教員の教育も考えていただけたらと思います。

・色々な説明を聞き、少人数では弊害も多いと思います。早い時期に「多可小学校・多可中学校」1校ずつにするのがよいのではないかと。

・少子化に伴う統合はしかたないが、通学時間が増え、家庭での学習時間が減る。また都会に比べて塾等の数も少ない。学習環境を整えるため、35人学級を早期に実施して欲しい。

・私事ですが、多可町が合併してから、ようやく中区、加美区、八千代区と呼べるようになりました。3校の統合はやらなければならないので、3中学校の交流やルールの統一は早い時期から実施していくことを望みます。

地域の学校教育のあり方を考える会 住民説明会（八千代区）

■日 時 令和3年10月30日（土）午前11時00分～午後0時30分

■会 場 八千代中学校体育館

■参加者 16名（中区0人、加美区3人、八千代区12人、町外1人）

【事務局】

・教育長	越川 昌信
・教育担当理事兼教育総務課長	藤本 志織
・学校教育課長	吉田 勇二
・学校教育課副課長	吉川 成悟
・教育総務課副課長	山本 聡
・教育総務課主査	有田 好孝
・教育総務課主査	安平智香子

○司会 藤本理事

○あいさつ 越川教育長

○説明 教育総務課 山本（約45分）

○質疑応答

○とても寂しい思いを持った。子どもたちはどんどん減っていくのだが、人口を増やす、盛り上げていく方面の計画があれば。林業などの産業を興したり、自然環境もいいし、給食費を無償化したり、多可町に来たらいい子どもを育ててもらえるなどといったアピールをみんなで考えていって、少しでも多可町の人口を増やす、若い人の人口を増やす、そういったことがもっともっと欲しい。人口減少は仕方のないことかもしれないが、教育にお金がかかることは仕方のないこと。

○私は1クラス45名で過ごしてきた。小学校というのは人としての基本となる部分を習得する期間。より充実した教育環境、小規模校であっても構わないから、きちっと地域に根ざした教育を受けて欲しい。地域で育てた子どもたちは、私は家から通勤するという先入観がありましたが、長男というのもあったのですが、最近の長男は近隣の市に結構住んでいる。なぜ家から通勤しないのか。多可町に大きな家があるのにそこから通勤せずに、都会の便利なところ、わざわざ住宅を借りて生活している。我々の育ってきた環境、考え方と今の若い人の感覚とどう違うのか、不思議に思う。人口を増やすということもさることながら、人口の流出を防ぐということに力を入れる。そのためには、若い保護者の方はどういうことを希望されているのかはわからないけれども、マンモス校を希望しているのかわからないけれども、小規模校でいかに人口流出を止めるような教育であったり、地域に根ざした教育を考えた方がいいのではないか。

→地域に根ざした学校、きめ細やかな教育が受けられる学校、教育の質を高めていく点については教育委員会でも取り組んでいく。八千代小学校で取り組んでいる地域と共にある学校、コミュニティ・スクールを町内の小学校に導入する予定で進めている。今後も地域の学校づくり、運営に関わっていただきたい。

○小学校・中学校をどんどん無くすことによって、人口減少を加速させる面が大きい。地域にあった学校が無くなり、通学させるにも、バス通など時間もかかる。八千代区、加美区などでは通学するのに条件が悪くなってきますから、そういうことを保護者が考えたときに、その地域で子どもを育てようという気持ちが維持できるか、そういうことを考えると少子化に拍車がかかってくる、加速していくことになる。地域にとってはそういう学校へ通わすためには、環境がどう変わるかということとは大きな問題ですので、人口減少を食い止めるためにも学校は維持という考えを地域としては持っていますので、学校を無くすだけでは余計に人口が減っていく。どの辺りで人口を行政として食い止め、このぐらいの維持はしていくかという設定をしていかないと統合しても、それ以上にもっと減少し、今の考え方であれば小学校の小中一貫校の方針もあるようですけど、どんどん学校を減らしていったら、逆に人口も減少していくので、どこかで食い止めていく政策を行政でやらしてもらわないと、統合したから人数が維持できるかということとは日本全体がそうではないので、そこだけを安心してやっているようでは、もうひどい地域、ひどい多可町になっていくと思う。そういう意味でも小学校の統合、多可町では小学校は複式学級が生じないという規模でありながら、小・中学校の統合、一貫校の考えもあるようですので、そこは充分に考えていかないと人口がどんどん減っていく。そこを充分考えてもらって、地域を大事にしてもらい、人口減少を食い止めるためにも小学校は残していってもらうということを強く思っている。

→多可町として目指す出生数は戦略として必要。保護者説明会で聴かせていただいた意見の中には、八千代区に中学校が無くなるのであれば、小学校は欲しいという意見があった。一方でクラス替えが出来なくなって心配する声もある。すごく迷いますという意見もたくさんいただいている。保護者の思いの中で、八千代小学校の児童数がどんどん少なくなって、令和2年度に生まれた子が男子8人女子3人で、八千代小学校がそのまま残るとするのは不安だという意見があった。

○孫が帰る準備をしている。今見えていない数字、そういう数字も構想に入れてもらわないと。

○説明を聞いて非常に悲しく、絶望的になりました。中学校においてクラス替えができることが、中学校の存続条件になっているが、中学校において「一人一人にきめ細やかな丁寧な指導が受けられる」ようにしたり、「充実した学習活動が保障される」ようにするためには、1クラスの人数の定員を減らせばいいと思う。20人ぐらいにすればいい

いのではないか。未だに、40人以上で1クラスにして「クラス替えができない」というのはおかしいのではないか。定数を減らせば解決する問題ではないかと思う。塾などでは20年以上前から集団指導から個別指導の流れがありまして、今では完全に個別指導の方が圧倒的に多くなり成果も出ている。学校を統合する前に子どもたちを増やす努力を優先すべきではないか、例えば産業を誘致したり、興したり、雇用を増やす努力、若者の職場を増やして、子育て環境をもっともっと良くして、子どもを産み育てることの方が当然優先すべきことではないか。合併特例債などを使って、いくら立派な大きな学校をつくっても、子どものいない学校になってしまう恐れがあると思う。教育にコスト論は無用で有害ではないか。生徒や児童の数のシミュレーションを見たが、この中には人口を増やそうとしている町の努力、成果はゼロとして前提にしているのだから、他の課の努力を一切無視されているのではないか。ここに増える余地はないのか。地域や文化の中心である学校が無くなるとますます嫁の来てが無くなり、若者たちは都会へ出て行きます。従って若い夫婦も激減し、子どもが生まれなくなり増えようがないと思う。やがて子どもの居ない町になっていくことは明らかだし、限界集落からやがて消滅集落へとになっていくかもしれませんので、そういう努力、人口を増やしたり、雇用を増やしたり、若者を定住させたり、Iターン、Uターンなど努力をすることが前提で、いきなり学校を減らしては、子どもの増えようがないのではないか。

→学級編制の法律が40年ぶりに改正され、段階的に35人学級となり、令和7年度までに1年生から6年生までが35人学級となる。多可町も30人から35人が望ましいのではないかと考えていて、毎年国へ要望もしている。これが30人を下回り、10人以下になると子どもたちの学び合いの機会が少なくなり弊害もあるのかなと考えている。少子化対策、人口、定住、移住対策についてはそのとおりで、全国的なことではあるが、多可町の将来を考えて、ここには力を入れて、町挙げて、各課挙げて取り組んでいる。人数の見込みについては、実際に生まれた子どもたちの人数を用いているので、定住対策や少子化対策の増の見込みについては見込めていない。

→各課の努力や少子化対策の課題解決に向けて、多可町一丸となって今取り組んでいるが、それがこの推移に反映されていない、見込めていない。出生数から小学校へ入学するまでどれくらい増えたかを調べると多くて2割増。生まれた子ども100人が小学校に入る段階で120人になる。それが、100人が200人になることはこれまではない。行政の施策が届いていないと反省すべき点だが、戻って来られる方を見込むということは難しい。そして、ぜひご覧いただきたいのが、ホームページで公開している小・中学校の保護者、加えて就学前、こども園の保護者の意見。会場でお一人お一人から聞いたり、全ての保護者にアンケートを送り意見を聞いている。特に若いお母さんの中には、企業誘致とか、子どもを増やすための施策とか、これまでもずっと子育て支援をしているけど、私たちの子どもたちは、現状では小規模の学校に行くしかない、支援の効果が出るのを待ってられない、期待感でずっとずっと統合が先延ばしにされ、学校が小さいままというのは耐えられないというご意見もある。全文をホームページで公開しているので、ぜひご一読いただき、小さなお子さんをお持ちの保護者の意見をぜひ

読んでいただきたい、受け止めていただきたいと思う。

○今言われた考え方が、行政のあり方に反映してしまっていて、今小規模校でも内容の良い教育環境は作れるわけだから、そういう環境を作ってもらえば、今から帰ってくる、帰って来られるかどうかということは今から結婚し、子どもを作っている若者は見ている。行政というのはいつも見られている。行政のやり方を。今言われた言い訳みたいな話からスタートし、もう少し規模の大きい学校にした方がいいという意見を聞いてください、今まさに小規模校でもいい学校を維持することは意義あることではないかという意見を言われたところだから、それを同じように受け止めた上で、どの辺で学校を減らすことを食い止めるのか、そういうことも考えながらやっていかないと、消極的なことばかり考えていたら、どこまでも人口が減少して、地域が無くなる。努力しなかったら。そのところを職員はしっかり考えてもらわないと。

→多可町役場は職員挙げてこれ以上人口を減らさないために進めている。

○それは医療費の無償化などやっている、もっとアピールしていく、それはよくわかっていて充分評価できると思うが、今意見をみなさんに言ってもらった中で、職員さんが後から話したけれど、それをやはり生かして、また新しいことを考え、新しい施策に生かしてもらわないと。時代はどんどん変化しているから、40人学級が35人、30人学級になる可能性も充分にある。時代の変化を捉えて、これからやっていってもらわないと。人口を増やすこともその一つ、それを捉えて政策を変えていく柔軟性をもっておかないと。国の政策もどんどん変わっている。(国の施策が)40人学級が35人学級になっている。それには理由があるはず。

→40人学級を一人の教員が見ることを考えますと、教室も少し広い特別教室を改修して対応している状況。クラス数が減れば、教員の数も減る。教員の給与は国が負担しているので、町で教員の数を決められるものではない。クラス数が減ることによって、教員の数が減ってしまう。中学校は教科担任制ですので、専門の教員を配置することが出来なくなっている。八千代中学校をみても、英語の教員が一人。中町中学校のように1学年に2～3学級あれば、同じ教科に複数の教員が配置できるので、40人学級でも20人と20人の少人数に分けて、子どもの進捗状況に応じてきめ細やかな指導をしている。八千代中学校では教員数が減り指導面でなかなか難しい状況にあって弊害も出ているので、地域の学校教育のあり方を考える会では中学校については、なるべく早く統合という意見になっている。

○僕の考えも、中学校と小学校とはまた別に考えるべきだという思い。先生の配置の件においても、中学校についてはしょうがない時期に来ている面もある。けれど小学校については、その考え方を変えていかないと小中一貫校を前提に方針を固めて、それに向かって邁進していくことは、結果として人口減少を加速させて地域が無くなってしまふ。中区だけが残って、加美区、八千代区の人口がどんどん減っていく、そういう結果

に繋がっていく恐れは充分にある。やった後に出てきて、やった後になるともう食い止められないから。

→先ほど、小学校やこども園の保護者の意見を紹介したのは、そういう思いを持っている保護者の意見を、生で聞いた中で、付け加えてお伝えをしたかったというところをご理解いただきたい。八千代区だけでなく多可町どことも思われていることで、少子化対策、定住対策について力を入れていきたい。

○定住対策、少子化対策、人口減少を食い止めるためには、小学校を維持するということは、一つの、大事にしないと維持しないと余計に人口が減っていく。その要素は重要だということ認識しておいてもらいたい。

【記述意見】

- ・八千代からなくなってばかりで取り残されている。部活動だけの合併でいい。1クラス20人クラスで、多可町独自に教員、塾講師などを増加して、質のいい教育を提供して欲しい。
- ・中学校において「一人一人きめ細やかな丁寧な指導が受けられる」ようにしたり、「充実した学習活動が保障される」ようにするためには、1クラスの人数の定員を20人位にすればよい。未だに、40人以上で1クラスにして「クラス分けができない」というのはおかしい。定数を減らせば解決するのではないか。塾などでは20年も前から、集団指導から個別指導、個人指導への流れが強まり、個別指導の方が多くなり成果も出やすいし出ている。地域に文化の中心にある学校が無くなると、ますます嫁の来てがなくなり、若者たちは都会へ出て行く。従って、若い夫婦も激減し、子どもが生まれなくなり、増えようがない。やがて、子どもの居ない町になっていくだろう。限界集落からやがて消滅集落となることは目に見えている。学校統合する前に、子どもたちを増やす努力を優先すべき。産業を誘致したり、興したり、雇用を創出し、若者の雇用と職場を増やし、定住者を増やして、子育て環境をもっと良くして、子どもを産み育てることの方が先ではないか。合併特例債を使って、いくら立派な学校をつくっても、子どものいない学校になりかねない。教育にコスト論は無用で有害である。バカげている。
- ・生徒・児童数のシミュレーションは、人口を増やそうとしている町の努力の成果をゼロとして前提しているのでは、他の課の努力を無視しているのではないか。
- ・子どもの数が平成22年から令和2年の10年で半数。10年後には子どもはいなくなるので、学校問題よりも、人口、子どもを増やす方法を考えて、2本柱が必要と思う。
- ・「考える会」の議事録は全て目を通してきましたが、少子化や特例債の期限、保護者や子どもの統合への賛成意見が多いことなどから、統合はやむを得ないと思いますが、そこまでに過疎化や定住の促進、企業誘致などうまくいかなかった町行政の施策にも遠因があることは、町行政も考えていただきたい。統合するに当たっては、賛成されていない少数意見をしっかりと汲むことや障がいなどをお持ちで、少なからず不安のある子供たちのために、スクールアシスタントの充実、地域性が全く違う3区の子ども、保護

者が集まることに対するケアなど考えていただきたい。また、現在、八千代区でみても、徒歩で通学する俵田とバスで通学する赤坂の児童では、時間的に体力的に不公平感があると考えます。その部分の改善をお願いします。

地域の学校教育のあり方を考える会 住民説明会（加美区）

■日 時 令和3年10月31日（日）午後2時00分～午後3時15分

■会 場 加美中学校体育館

■参加者 19名（中区1人、加美区14人、八千代区3人、町外1名）

【事務局】

- | | |
|----------------|-------|
| ・教育長 | 越川 昌信 |
| ・教育担当理事兼教育総務課長 | 藤本 志織 |
| ・学校教育課長 | 吉田 勇二 |
| ・学校教育課副課長 | 吉川 成悟 |
| ・教育総務課副課長 | 山本 聡 |
| ・教育総務課主査 | 有田 好孝 |
| ・教育総務課主査 | 安平智香子 |

○司会 藤本理事

○あいさつ 越川教育長

○説明 教育総務課 山本（約45分）

○質疑応答

○八千代小学校を統合した時のメリット・デメリットを教えて欲しい。

→デメリットですが、統合した時に教員が忙しかったこと。これは反省として捉えている。メリットは、学校によっては男子1名女子1名だったこともあって、統合して2クラスになった、クラス替えが出来るようになった。友だち関係で悩んだときに相談が出来たり、30人程のクラスになったことで勉強の面でもいろんな友だちの意見を聞くことができたり、交流することが出来たり、その点が統合してよかったと聞いている。また、教員も同学年に2人いるため、授業を進めていく上でも相談しながら授業が出来るということも良かったと聞いている。

○保護者の感想はどうですか。

→保護者の方も、クラス替えが出来るという点でも、子どもが友だち関係で悩んだときに、クラスを替えることによって子どもの居場所ができてよかったという意見や、同じ学年で大勢の人数で遊べるということで、子どもの数は少ない中でも、学校へ行けば大勢の友だちと遊べるのが良かったという声を聞いている。

○個人的な意見だが、中学校が統合すれば、いずれは小学校も統合すると思うが、その時に、出来れば場所は、中区辺りが適当だなと思うが、出来れば小学校・中学校一緒に学校をつくっていただきたいと思う。小学生がその学校に行き、その後中学校になっ

ても同じ近距離で、同じ場所で学習できるようになると精神的に通学の面でもいろいろな面で安心感があるかなと思った。

→地域の学校教育のあり方を考える会でも小学校についてはいろいろな意見があった。いずれは小学校も統合せざるを得ない時期が来るという意見がある中で、統合の段階、範囲については、区ごと、又は小中一貫教育を見据えて町全体で一つにという2通りの意見がある。小中一貫教育についても多可町として取り組んで欲しいという意見をたくさんいただいているので、中学校の統合を進めながら、小中一貫教育も研究しながら、地域の方と一緒に統合については遅れないように進めていきたい。

○説明では、中学校の統合がメインで、それが終わった時点で次に小学校統合かなという感じを受けた。子どもたちの状況を見ますと、それでは悠長なのではないか。小・中学校を一気に進めていくぐらいの方が、財政面のことも考えると有利ではないか、子どもたちの教育環境を考えてもその方がいいのではないか。特に先ほど八千代小の話がでしたが、3つの小学校が1つになりましたが、6年でもう1学年1学級になってクラス替えが出来ない状況になっています。加美区で、中区でそれぞれ2つの学校を1つにしてもすぐに単学級になってしまうことは目に見えているので、時間的にも財政的にも、その段階を踏むことによって、大きな無駄になるし、子どもたちにも不便を、しんどい思いをさせますので、もちろん中学校の統合が喫緊の課題ではありますが、それに遅れないように、出来るだけ速やかに小学校も多可町全部を一つにまとめてしまって、アスパルの近くに運動場があったり、旧中町幼稚園があったり、体育館があったりするエリアに、多可町の子どもたちが夢と希望を持って勉強できるような小中一貫校をつくっていただきたい。

○中学校が統合となれば、小学校の統合も近いと思う。加東市がやっているような東条学園のような、小学校と中学校を同じ場所にするのではなくて、将来の話をするのですが、杉原谷小学校と松井小学校が無くなると危惧することもあるので、両小学校を残しつつ、残した中での小中一貫校はできないかと考えていた。中学校が中区になると国道の所しかバスが走っていないので、そこまで自転車で出なければいけないのかなと先の事を考えながら、経費もかかるのですがそれは仕方ないのかな。

→多可町でも区ごとの小中一貫校について意見が出ました。中学校で1学年2学級ないと教員の配置数の関係で教育の質を高める点でも難しいなというところで、多可町の人口規模であれば中学校は1校になるかなと議論がなされた。

→中区、八千代区の説明会でもたくさん意見をいただきましたが、子どもの教育環境のあり方と並行して、住みやすいまちづくり、子育てするなら多可町、定住対策など進めていかないといけないと考えている。明石市に負けなくらいの子育て施策があるが、PR不足は反省点で町内外にもっと周知していく必要があると考えている。

→バス通学については、6キロを超えるとバス通学になる。実際には6キロを超えても、時間的な制約を受けるため自転車通学で通っている生徒もいる。考え方としては、まず

6キロで区切るが、集落の公民館と学校までの距離から自転車で通える距離であるか、子どもたちの成長段階などから検討していく。バス停まで離れているところについての手立てについても、具体的には統合準備委員会において、保護者の意見や子どもたちの声を聞きながら決めていくことになる。八千代小学校では、これまで4キロ超えて、80分かけて登下校していた集落については統合を機にバス通学に是正した。スクールバスが便利ではないかという議論もあったが、路線バスと同じルートにスクールバスを走らせると路線バスの撤退もあり得るとのことだったので路線バスを活用している。路線バスといいながら町で2台のバスを購入し、スクールバスのように学校行事に併せて活用している状況。最終的には、統合準備委員会で議論するが、様々な地域の事情があるので、その状況を踏まえて、議論していくことになる。

○残った建物をどう活用するとか、小学校の統合が進むと町内に巨大な廃墟が、使用されない施設がたくさん残ることになる。村の行事などで小学校を使っているが、今後の活用とか維持の方法とか、どういう構想で活用、維持を図っていくかなども併せて説明してもらえれば、少し不安というか、前向きに捉えられるかなと思うし、今後、このような場があるようでしたら、町全体での考えを説明してもらえれば安心かなと思う。閉園された保育所の跡地について、集落への払い下げの際に、購入するかしないかで集落を2分することとなった。結局、村総会で否決され購入は見送られたが、もう少し早く、建物がきれいなうちに話があれば購入し、集落で活用できていたと思う。学校施設は集落で活用することは難しいと思うが、売却するなら建物がきれいなうちに話は早く進めた方がよい。

→現状では、統合が決まった段階で跡地活用について議論を始める。有効な活用について、地域の皆さんと協議して進めていくことになる。学校としての役割を終えた施設は、まずは、行政需要があるかどうかの判断。町有財産として使う目的があるか、必要かどうかの判断をする。町として活用しないという判断となれば、地域のみなさんの要望やご意見を聞きながら、活用の募集要項をつくり、民間の力を借りたり、地域で使っていたりしながら、防災の拠点なども含めて総合的に検討を進めていくことになる。

【記述意見】

- ・小学校も急ぎ統合してもらいたいです。
- ・本当に小学校も統合が必要。今すぐに話し合いに入っていくべきだと思う。
- ・八千代小のデメリットで、職員が忙しかったと話されていました。職員が忙しいという事は、子どもたちもきっと大変だったろうと思う。統合する数年前より、職員、子ども共に密な交流が強く必要だと思う。校則だったり、制服であったり、流れをスムーズにしてほしいと思う。
- ・統合の必要性は十分に理解できました。多可町の中でも、中区、八千代区、加美区という地域性があると思います。保護者や児童の様子も様々であると思います。それが一つの学校として運営されたり、子どもたちに指導していくとなると、大変だろうなとい

う不安を感じます。

- ・統合はやむを得ないと思いますが、3区文化も気質も違うので、〇〇小学校のような事件がないように、相談体制については充実して欲しい。(校内、校外含めて)
- ・障がいを持つ子どもたちへの配慮も充分してほしい。統合するなら新しい校舎を。
- ・学校を含め、地域の公共施設は一面、地元との小売店など、小さなお店を支えているところもある。お店側は、「学校の(役場の)用があるなら歳がいくまで続けてみよう」とお店を維持してくださっているところもあるし、住民側も「(車の運転もしにくくなったし)近くにお店があるなら、そこで買ってみよう」などとお互いに生活を支え合っている。人の立ち寄る場所があるからこそ、会話があり、コミュニティは維持される。学校が閉じたあとの地域にも目を向けていただき、廃校後のまちづくりについても考えていただければと思います。西脇市は、財政難と言われながら、双葉小の統合についてやっと考え始めている。多可・西脇1市4町の合併を断って、旧3町合併を選択されたので、自治体の運営が苦しいのは目に見えていたこと。住民税を上げたり、保護者負担を上げたり、地域労役、寄付金を広く募るなど、もう少し頑張っしてほしいなあとという思いです。・・・いや、これまでよく頑張っただけと評価すべきなのかもしれませんね。
- ・本日の資料のとおり、合併で進めていくのがよいと考えます。保護者が良い教育を求めて、町外へ出て行く事のないように対策をしてほしい。